



令和4年度  
広島県障害者文化芸術  
活動支援事業報告書



## 令和4年度 広島県障害者文化芸術活動支援事業について

文化芸術活動の支援力が高まり、独自で創作活動や発表を実施される施設・事業所が増えていること、その反面、コロナ禍で活動の見直しやスタッフの世代交代により、新たに創作活動に取り組もうとしている施設・事業所があることから令和4年度は、独自で取り組まれている施設・事業所の更なるステップアップと、これから取り組まれる施設・事業所が安定して活動を継続できるよう、縦の関係を紡ぎながら、ネットワークの体制を整えていくことを目的に動きました。

また、多様な表現の裾野を広げることを目指し、表現活動に取り組んでいる団体のサポートを行い、本人(当事者)、福祉施設・事業所、団体、機関などと連携をとりながら「共利共生」に着目した事業を実施しました。



助成プログラム「アートの巣箱」より Photo ©Ishii Seichiro

助成事業「アートの巣箱」と協力依頼の対応より

## 目次 Contents

令和4年度 広島県障害者文化芸術活動支援事業について	2
(1) 広島県アートサポートセンターの運営	3
(2) 普及啓発・情報発信事業の実施	3～4
(3) 人材育成事業の実施：	
セミナー&座談会	5～6
新たな出会いセミナー：墨を使った表現について～書・書道～	6
表現者発掘プロジェクト「アーティストに会いにいった」	7
(4) 創作活動支援事業の実施：	
ワークショップ「おみくじアート」	8
障害福祉サービス事業所等への専門家派遣事業	9～10
(5) その他障害者文化活動の振興に資する事業：	
遠隔ロボットを使った鑑賞会 in あいサポートアート展	11
みんなで楽しむおしゃべり鑑賞会	12
助成事業「アートの巣箱」	13～16
協力依頼の対応	17～18
(6) 相談	19～20
1年を振り返って(総括)	21

## (1) 広島県アートサポートセンターの運営



### ア) アドバイザーの設置

障がいのある方、サポートしている方の多様な文化芸術の創造、鑑賞等に資するため、普及啓発・情報発信事業、人材育成事業、創作活動支援事業、相談業務等、アドバイザー（相談員）を2名（うち1名は兼務）とサポートスタッフ1名（兼務）を配置し、サポートセンターの運営を行いました。

### イ) 認知度の向上対策等

広島県アートサポートセンターの役割と認知度向上を目指し、新しいパンフレットを作成し、福祉サービス事業所、文化施設、広島市内の公民館に配布しました。また、各事業開催のお知らせや報告などをホームページ、Facebook、Instagramにて掲載しました。

情報収集については、事業後のアンケートやサポーターが集まる場で、ニーズ(活動要望)など聞き取りを行いました。



アビリンピックでの作品展示の様子

## (2) 普及啓発・情報発信事業の実施



### ア) 作成したホームページの管理運営

委託業者と連携しながら、ホームページの管理運営を行いました。

### イ) 障害者文化芸術活動に関する情報の収集・発信

県内外で開催される関連事業の情報をチラシやメール、SNSなどで収集し、ホームページ、Facebook、Instagramなどで発信しました。また、安芸郡にある久蔵寺、広島市にあるクリップ広島でのハートフルフェスティバル、独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用促進支援機構主催のアビリンピックで、あいサポートアート展やピースアートプログラム アート・ルネッサンスに入選したアーティストの作品展示を行い、多くの方に作品を見ていただく機会をつくりました。合わせて、サポートセンターのチラシ配布や口頭でサポートセンターの取り組みについても説明を行いました。

アートに関する権利の普及については、申込者や見学者に「障がいのある方の権利に関するQ & Aハンドブック」「障がいのある方の権利に関するQ & Aハンドブック②」と令和3年度事業報告書の配布を行いました。また、愛媛県障がい者アートサポートセンターから講師派遣の依頼があり、協力委員の三浦 友美 先生に繋ぎ、ハンドブック各80部を提供しました。

### 〔成果〕

昨年より、Instagramのアクセス数が増え、ホームページやSNSを見て連絡したという相談者や問い合わせが多くありました。そのことから、ホームページやSNSが情報を集めるツールとして活かされていることがわかりました。作品展示に来られた方から「仕事のことばかり考えていたけど、絵を描いて過ごす方法もあるんだ」「僕の撮った写真を見てください」等、文化芸術活動に興味を示される言葉を聞くことができました。

### 〔課題〕

障がいのある方がホームページやSNSを活用される機会が増えてきているものの、未だ紙媒体で情報を得られない方もおられ、福祉サービス事業所や病院などに所属されていない方から、個人に郵送で情報提供してほしいという相談が増えています。必要としている方にはできるだけ情報提供したいと考えますが、サポートセンターが年数を重ねるにつれ、個人対応の人数が増え、費用面で厳しくなっている現状があります。情報提供をメールやショートメール、ラインなどに変更するなどの工夫をしていきたいと思えます。

### 【年間発信数】

ホームページ 176 件、Facebook 195 件、Instagram 32 件 合計 403 件

### 【アクセス数】

ホームページ 30,419 件、Facebook 9,470 件、Instagram 1,647 件  
合計 41,536 件

### 【「障がいのある方の権利に関するQ & Aハンドブック」

### 「障がいのある方の権利に関するQ & Aハンドブック②」

ハンドブック申込数】8件



パンフレットを制作して配布いたしました。

### (3) 人材育成事業の実施

#### ア) セミナー&座談会の実施

これから表現活動を始められる方たちにとって、これまでの取り組みが継承され、縦の関係を紡ぎながら、今後の活動がより広がり高まり、新しい時代を創りだしていく新鮮な活動がうまれていくことを目指してセミナー&座談会を実施しました。セミナーでは、各施設・事業所・団体の取り組みや講師の思いについて、お話をいただきました。

##### ●セミナー&座談会1 やまなみ工房の日々から

【開催日】2022年7月15日

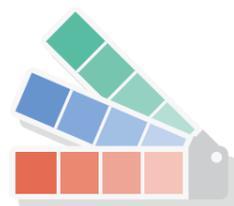
【場所】OTIS! (広島市)

【方法】会場とオンライン (zoom)

【講師】やまなみ工房施設長 山下完和氏

【参加者】支援者:13名 一般:2名 合計 15名

【協力】アートサポーター、太田川学園



##### \* 参加者の感想 \*

- ・"自分の大好きなことを自分なりに表現することで誰かをよこばせることができる"というお話、障害を持つ方だけでなく"健常者"とされる方にもあてはまることだと、すごく印象に残りました。
- ・初めの物語を聞いて、涙が出そうになりました。職場の全員に聞いてほしいなと思いました。自分も変わりたいと思います。

##### ●セミナー&座談会2 ほっとスペースぼんぼんの日々から

【開催日】2022年9月17日

【場所】佐東公民館 (広島市)

【方法】会場とオンライン (zoom)

【講師】ほっとスペースぼんぼん 所長 鱈川華衣

【参加者】支援者:2名 一般:4名 合計 6名



##### \* 参加者の感想 \*

- ・偶然からアートが生まれる瞬間がリアルタイムで拝見できて興味深かったです。また、いい事ばかりではなく、眠っている作品の利用法で悩まれている等、課題についておうかがいできたことも座談会でなければ知り得なかったことでした。
- ・販売会の情報収集が出来るようになることが必要と感じました。

##### ●セミナー&座談会3 社会福祉法人若菜の日々から

【開催日】2022年10月15日

【場所】社会福祉法人若菜 ギャラリー若菜 (福山市)

【方法】会場とオンライン (zoom)

【講師】社会福祉法人若菜 すが野の里施設長 大田麻衣子氏

【参加者】支援者:10名 合計 10名



##### \* 参加者の感想 \*

- ・外部講師を招いて良かったこと、課題に感じたことをつまびらかにお話し下さり、とても良かったです。
- ・職員さんどうしはもちろん、職員さんと利用者さんとのコミュニケーションを大切にされている様子が印象的でした。

##### ●セミナー&座談会4

「アートとフクシのコラボケン〜ときどきキョーイク 2022〜」

【開催日】2022年11月5日

【場所】広島県立美術館 講堂 (広島市)

【方法】会場とオンライン (zoom)

【講師】富山県障がい者芸術活動支援センター  
ばーと●とやま代表 米田昌功氏

【参加者】支援者:3名 一般:1名 合計 4名



セミナー&座談会4の様子

\* セミナー&座談会を聞き、  
やってみよう、取り入れてみよう  
と思われたことがありましたら教えてください \*

- ・ガチャガチャしてみたいです。作品を見て題名をつけるワークショップをやってみたなと思いました。
- ・レプリカの取り組み



セミナー&座談会1の様子

#### イ) 新たな出会いセミナーの実施

##### ●墨を使った表現について〜書・書道〜

県内で実施されている展覧会において書の作品は大きく、2種類の表現が見られることから、「書道」と「書」について今後の活動や支援に繋げていただける知識を修得できることを目的に実施しました。

【開催日】2022年11月19日

【場所】熊野町民会館 熊野公民館 美術工芸室 (安芸郡)

【方法】会場

【講師】広島大学 大学院人間社会科学部研究科・教授  
教育学部 副学部長 松本仁志氏

【参加者】本人:2名 支援者:6名 合計 8名



新たな出会いセミナーの様子

##### \* 参加者の感想 \*

- ・楽しんで書くことが大切だということがよく分かりました。
- ・書と書道という真逆に思えることを改めて知って深まった気がします。
- ・墨象の作品を見て、やってみようと思いました。

##### 〔成果〕

セミナー&座談会や新たな出会いセミナーのアンケートで、新たな知識を得られたと回答された方が多く、「作品を作るということは、本人の気持ちを引き出すこと」「職員さんどうしはもちろん、職員さんと利用者さんとのコミュニケーションを大切にされている様子が印象的だった」「いい事ばかりではなく、眠っている作品の利用法で悩まれている等、課題についておうかがいできたことも座談会でなければ知り得なかったことでした」などのコメントから、アートをどのようにとらえ、サポートしていくかのヒントが得られたセミナーになったと考えています。また、講師が所属している施設を見学したいという希望も多かったため、今後のネットワークづくりに反映させていきたいと思っています。

##### 〔課題〕

セミナーの参加者が集まりにくく、ほとんどのセミナーが少人数での実施となりました。その分、参加者と講師とがしっかりコミュニケーションをとることができたので、「縦の関係を紡ぎ」という面では良かったのですが、広めていく点においては課題が残りました。数カ所の施設・事業所に直接連絡を入れたところ、感染症の対応で、活動グループが分散された状況が続いており、スタッフが日々のケアに追われている現状があること、ケアの部分が落ち着かなければ、文化芸術活動まで手が回らないという意見をいただきました。これまで構築した繋がりを継続していくために、セミナーの参加に関わらず、福祉現場の現状の聞き取りも行いながら、学びの機会を作っていく必要があると感じています。

## ウ) 表現者発掘プロジェクト「アーティストに会いに行ってみた」

県内で文化芸術活動に取り組んでいる障がいのある方の発掘や、地域で障がいのある方の文化芸術活動を支援する方との繋がりをつくるなど、障がいのある方の文化芸術活動の裾野を拡げるため、アートサポートセンターと交流のあるアーティスト3名の表現を取り上げ、表現される過程や本人の創作への思いや理由などを聴き取っている様子を映像撮影しました。編集が終わり次第、広島県アートサポートセンター YouTube チャンネルにて広く公開します。



### ●アーティスト1

【取材日時】2023年2月17日

【場 所】広島市安佐南区民文化センター 工作実習室

【アーティスト名】井上 和太氏

【聞き手】ギャラリーミヤウチ 学芸員 今井 みはる氏  
認定NPO法人ひゅーるぼん 理事長 川口 隆司

【聞き手・編集】アーティスト 諫山 元貴氏



### ●アーティスト2

【取材日時】2023年3月10日

【場 所】広島市北部デイサービスセンター

【アーティスト名】北東 志朗氏

【聞き手】ギャラリーミヤウチ 学芸員 今井 みはる氏  
認定NPO法人ひゅーるぼん 理事長 川口 隆司

【聞き手・編集】アーティスト 諫山 元貴氏



### ●アーティスト3

【取材日時】2023年3月30日

【場 所】鬼頭 純平氏 自宅

【アーティスト名】鬼頭 純平氏

【聞き手】ギャラリーミヤウチ 学芸員 今井 みはる氏  
広島県アートサポートセンター 保田 香織

【聞き手・編集】アーティスト 諫山 元貴氏



## 〔成果〕

アーティストさんたちの、創作現場で過ごされている表情は穏やかで、問いかけに対してとても丁寧に回答くださいました。表現が生まれる現場は、本人に合わせた道具やスペースが簡易的に用意されており、創作や表現することが特別というわけではなく、日常生活の一部として創作や表現する時間・場所があるといったスタイルでした。動画配信はこれからですが、アーティストが創作に対しての気持ちを素直に語り、表現されている姿を見ていただき、特別な場所でなくても表現活動は始められることであったり、実は既に表現があるかもしれないことに気づいていただけでも良いと思います。

## 〔課題〕

近年、障がいのある方の作品発表の場が増え、喜びを感じていますが、時折、来場者や二次利用を考えている方から、アーティストや支援者、関係者の気持ちを無視した発言を聞き、残念に思うことがあります。障がいのある方の作品は、日々の繰り返しと他者の小さな気づきにより発表につながることで、その過程が何より大切であることを、作品とともに知っていただきたいと考えます。

## (4) 創作活動支援事業の実施

表現すること楽しさを体験すること、多様な表現があることを知り、それを楽しむ視点を感じ、学ぶことを目的にワークショップや指導者派遣を実施しました。

### ア) ワークショップ

●ワークショップ「おみくじアート」

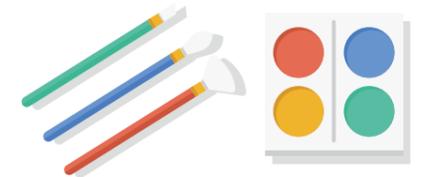
【開催日】2022年11月6日

【場 所】広島市東区民文化センター

【方 法】会場

【講 師】富山県障がい者芸術活動支援センター ばーと●とやま代表 米田昌功氏

【参加者】本人：5名 支援者：5名 合計 10名



### 〔内容〕

参加者が「どこで」「誰が」「何をした」という3つの言葉を書いたものを使って、おみくじをつくり、それぞれが引いた言葉をつなげた文章をもとに絵を描きました。その後、どんな言葉で、どんな作品が生まれたか発表し、出来上がった作品を鑑賞しました。

### 〔成果〕

おみくじを引くワクワク感や、対話しながら創作を進めていく中で、参加者それぞれの表現一つ一つを肯定的に受け止める様子が伺えました。簡単なルールと目的がある活動は、障がいの有無や年齢に関わらず、楽しめる事がわかりました。アンケートで全ての方から「楽しかった」と回答いただき、こういった体験の積み重ねが大切であると感じています。

### 〔課題〕

今回参加された本人さんは、個人で参加された方たちが多く状況でした。相談対応でも、就労している、仕事を主とした福祉サービス事業所を利用している方で、空いた時間を使って文化芸術活動をしたいと考えておられる方が増えています。創作できる場、表現できる場が、もっと増えることが必要であると感じます。

### \* 参加者の感想 \*

- ・おみくじがわくわくしました。
- ・ぼくが今日初めて参加できてうれしかったです。
- ・もっとじかんがあったらよかった。
- ・またさんかしたい。こうさくがしたい。



## イ) 障害福祉サービス事業所等への専門家派遣

施設のスタッフが必要とする知識やスキルが向上すること、参加者が表現を楽しむことを目指し、専門家と福祉施設・事業所に訪問し、普段使用しない画材を使っての創作や展示方法についての研修会を実施しました。

●専門家派遣実施回数 4 回 延期になった回数 1 回

### 専門家派遣① 展示方法の基本を学ぶ

【訪問日】2022年6月28日

【訪問場所】社会福祉法人 静和会 大日学園（府中市）

【内容】展示についての勉強会

【対象者】社会福祉法人 静和会のスタッフ

【講師】ギャラリーミヤウチ 学芸員 今井みはる氏

【参加者】スタッフ 10 名 計 10 名

### ＊参加者の感想＊

- ・置き方や並べ方にも手法があり、同じ作品でも印象が全く変わるのが面白かった。パーテーションは導線にもなる為見え方や置き方の工夫と経験が必要で難しいなとも思った。作品を活かせる事が出来るように展示していくことができればと思った。
- ・展示方法で作品の印象が変わる事、キャプションを始めに付ける事が印象的でした。販売については、大きい作品より小さい作品の方が好まれる事を知り 10 月の芸術祭では、自施設だからできる事を強みにし、研修内容を活かした展示方法を考えたいと思いました。展示の経験が少ない方でもイメージがしやすかったのではないかと思います。
- ・その場においてあるものを、背景の一部としてとらえ、作品のみではなく会場全体の雰囲気作品展示をしていることがとても印象に残っています。

### 専門家派遣② 陶芸粘土で遊ぼう!

【訪問日】2023年1月25日

【訪問場所】認定 NPO 法人ひゅーるぼん（広島市）

【内容】陶芸表現を体験する

【対象者】認定 NPO 法人ひゅーるぼんにきつ組に通所する小・中学生

【講師】広島県アートサポートセンター 保田 香織

※橋篤史先生に講師をお願いしていましたが、大雪のため来所が難しくなり、サポートセンターで対応しました。

【参加者】本人 8 名 スタッフ 2 名 合計 10 名



専門家派遣①「展示方法の基本を学ぶ」の様子



専門家派遣②「陶芸粘土で遊ぼう!」の様子

### 専門家派遣③ 墨で遊ぼう!

【訪問日】2023年2月18日

【訪問場所】ライフスペースともある（安芸郡）

【内容】墨を使った表現を楽しむ。

【対象者】ライフスペースともある通所者

【講師】書家 高津 佳代子氏

【参加者】本人 17 名 スタッフ 6 名 合計 23 名



専門家派遣③「墨で遊ぼう!」の様子

### 専門家派遣④ 遠隔ロボットを使った博物館見学会

【訪問日】2023年3月7日

【訪問場所】ふくやま草戸千軒ミュージアム（広島県立歴史博物館）と広島大学附属東雲小学校（福山市と広島市）

【内容】遠隔ロボットを使って、広島県立博物館を見学する

【対象者】広島大学附属東雲小学校 4 年生と博物館学芸員

【講師】広島支援機器 代表 魚坂 隆氏

【参加者】本人 2 名 教員 1 名 博物館関係者 3 名 合計 6 名

【協力】広島大学

＊遠隔ロボットを使った見学会で印象に残っている場面を教えてください＊

（博物館担当者 石橋さん）

- ・大人の想定を離れ、関心の赴くままに児童がロボットを移動させ、展示室をくまなく巡ったこと。
- ・児童が知っているものと結びつくものに関心を寄せてくれたこと。

（広島大学 池田先生）

- ・石橋さんからの投げかけや質問に対して、一生懸命考えていた姿。
- ・興味があるものが画面に映し出された時には、パソコンから離れて、テレビの画面（大きい画面）に近づき、画面を凝視していた場面。

（東雲小学校 横山先生）

- ・二人で一つのロボットを操作したことで、譲る、待つ、関心が高まるなど互いに影響を受けていた姿が見られました。
- ・実践後も児童は、ロボットを話題にすることがありました。ココスでロボットを見たと言ったり、色んなコントローラーをグーグル検索したりするようになりました。おかげさまで彼らの視野が広がりました。

### 〔成果〕

講師へ熱心に質問されている施設・事業所のスタッフさんの姿や、作品が出来上がる度にスタッフさんに声をかけておられる利用者さんの様子を見て、専門家が現場にいて、施設・事業所、団体のニーズに応じた知識や情報を提供できるだけでなく、表現活動に対するモチベーションの高まりを感じることができました。

### 〔課題〕

専門家派遣後、しばらくは表現活動に対するモチベーションの高まりが見られますが、時間の経過とともにマンネリ化してしまい、表現活動を担当するスタッフが負担に感じ始めてしまう傾向があります。継続した派遣や、表現活動について話ができる機会があることが必要だと感じています。



専門家派遣④「遠隔ロボットを使った博物館見学会」の様子

## (5) その他障害者文化活動の振興に資する事業

### ア) 文化芸術等への鑑賞に関する事業：一体型プロジェクト企画

福祉施設や学校、地域の文化施設等において、障がいのある方が文化芸術活動に参加・体験できることと、公共施設において、障がいのある方が参加可能な文化芸術活動の環境整備を検討することを目的に、遠隔ロボットを使った鑑賞会と対面型の鑑賞会を実施しました。

#### ●遠隔ロボットを使った鑑賞会 in あいさぽーとアート展

【開催日】(広島会場) 2022年11月3日 (福山会場) 2022年12月7日

【場所】(広島会場) 広島県立美術館 (福山会場) ふくやま美術館

【方法】オンラインと対面

【講師】広島支援機器 代表 魚坂 隆氏

【参加者】(広島会場) 本人：3名 支援者：2名 合計 5名

(福山会場) 本人：37名 支援者：4名 合計 41名

【連携団体】広島県、広島大学、広島県立美術館、ふくやま美術館、広島支援機器研究会



#### \*印象に残っているエピソードや感想 \*

- ・自閉症の方の手を持って一緒にパソコンを操作したのですが、一旦パソコンから離れたあと、自ら操作しようと手を伸ばす姿が見られました。画面を不思議そうに見られ、興味がある様子でした。
- ・子どもにも使いやすく、おもしろかったです。会えない、行けない人にとってはいいですね。
- ・今回、仲間にパソコン操作してもらいながら鑑賞できてよかったです。
- ・鑑賞は楽しかったんですが、カメラの操作が思うように動かなかったので、しんどかった。画面がフリーズして見えにくかったのが残念だった。ロボットに向かって、挨拶してくれる人がいて、楽しかった。また、ロボットを使って美術館の鑑賞がしたい。
- ・ご利用様は操作困難なため、職員で行いました。ご利用様は画面を食い入るように見ていました。また気になる作品があった際は、声を出して教えてくれていました。作品を見た時「きれい」と言って楽しまれました。また、似たような作品をつくれるかもよ。と声掛けした際は「ほんど？」と今後の楽しみきっかけにもつながりました。職員も気になって「あれはあれは」と声をあげる事もありました。



#### ●みんなで楽しむおしゃべり鑑賞会 ～美術館でアートをみよう～

【開催日】2023年3月25日

【場所】広島県立美術館

【方法】対面と遠隔ロボット

【講師】(遠隔ロボット操作講師) 広島支援機器 代表 魚坂 隆氏  
(ファシリテーター) 広島県立美術館 学芸員 森万由子氏

【参加者】本人7名(内2名ロボットで参加) 支援者1名 合計8名

【連携機関等】広島県、広島大学、広島県立美術館、広島支援機器研究会



#### \*参加者の感想\*

##### (対面参加者)

- ・大勢で見れてよかった。
- ・色々おしゃべりできて、楽しかった。
- ・絵の太陽のまぶしい黄色きれいだっただ。

##### (ロボットでの参加者)

- ・作品がとても素晴らしかったです。
- ・すごく楽しかったんだよ。練習の時にロボットを動かしたんだけど、すごく楽しかった。ロボットが自分の思い通りに動いていたから「すごい！」と感動したのです。
- ・音声が分かりやすい方が良かった。せっかく、絵の説明をしてくださっているのにもったいないと思った。ロボットが、少しだけカーソルや十字キーを触るとすごい動いてしまって難しかったです。

##### (対面参加者のサポーター)

- ・自分から発表していたので驚きました。滑舌が悪くていつもは伝わりにくいのですが学芸員さんにちゃんと伝わっていて親としては嬉しく思いました。

##### (ロボットでの参加者のサポーター)

- ・事前練習でロボットの存在や体験できたのが良かった。女性をの作品を見てたくさんの発言があり、盛り上がりました。「人生を考えているんじゃないか」と色々発言がありました。

#### (成果)

遠隔ロボットを使った鑑賞会では、遠隔ロボットの操作を事前に練習する機会を設けました。おかげで、当日の鑑賞会をスムーズに進めることができました。参加者から作品を説明している時に「きれい」という発言があったり、支援者の方より「自閉症の方が自ら操作しようと手を伸ばす姿が見られ、画面を不思議そうに見られ、興味がある様子でした」という報告がありました。そのことから、障がいのある方が遠隔ロボットを使って鑑賞することへの興味の有無や可能性を知ることができました。

おしゃべり鑑賞会では、昨年度に引き続き、他機関と連携して実施したことにより、障がいのある方の鑑賞に関わる、体験の幅を広げる事ができました。感じたことを発したり、他者の見方を知ったりすることで、作品に対する興味も増したようで、鑑賞会の継続を期待される意見がありました。

#### (課題)

ロボットを使った鑑賞会は有効であると感じましたが、公共施設のWi-Fi環境が整っておらず、ロボットを導入するまでの準備が大変時間がかかりました。鑑賞中も画面が固まったり、音声が途切れる、ロボットが暴走するなどの不安定さがありましたので、関係機関に協力いただきながら、安定した利用に向けて検証していきたいと思えます。

おしゃべり鑑賞会では、対面とロボットの2つの方法で鑑賞できるようにしましたが、対面の参加者とロボットを使っての参加者の美術館から得られる情報量の違いを感じました。鑑賞支援において「情報保障」ということもテーマになっていますので、鑑賞会のあり方を再度検討したいと思います。

今後、障がいの有無に関わらず、Wi-Fiを使った取り組みが増えていくことが予想されることから、公共施設のWi-Fiや利用環境が整っていけば良いと願っています。

## イ) 企画提案事業

### ●助成事業「アートの巣箱」

地域で障がい者の芸術文化活動を応援する人が増えることを目指し、地域で表現活動に取り組んでいる2団体を助成し、活動のサポートを行いました。

※当初3団体に助成が決まっていたましたが、1団体が新型コロナウイルス感染症の広がり事業所の都合により辞退されました。

【助成金交付先】 art201、ART COMPLEX HIROSHIMA

art201 のホームページ

<https://art201hiroshima.wixsite.com/website>

ART COMPLEX HIROSHIMA の Facebook

<https://www.facebook.com/groups/art.complex.hiroshima>



art201 のホームページ



ART COMPLEX HIROSHIMA の Facebook

### 【art201 の実施概要】

#### ①ウッドワン美術館新館ロビー展示

【実施期間】 2022年7月15日～9月25日

【場 所】 ウッドワン美術館(廿日市市) ウッドワン美術館本館来場者数: 2,497人

#### 【内容】

ウッドワン美術館で「やまなみ工房の無限大宇宙」展があり、新館ロビーで広島県内の取り組みとして art201 も紹介され、会員の作品を展示しました。

#### ②カラフルアートフェスティバル

【実施日】 2022年9月18日

【場 所】 平和大通緑地帯(広島市)

【参加者数】 本人4名、支援者・サポーター7名、一般25名 計36名

【内容】 青年商工会議所主催のイベント。平和大通緑地帯で木の端材に絵を描くワークショップを開催しました。

#### ③サロン

【実施日】 2022年11月20日、12月18日、2023年2月19日

【場 所】 広島トヨペット廿日市店ナレッジルーム(廿日市市)

【参加者数】

(11月20日) 本人7名、支援者・サポーター8名、一般1名 計16名

(12月18日) 本人8名、支援者・サポーター4名、一般1名 計13名

(2月19日) 本人13名、支援者・サポーター8名 計21名

【内容】 木材や和紙を使った創作活動を行いました。

#### ④ art201 展覧会

【実施期間】 2022年10月12日～25日

【場 所】 はつかいち・みやじま情報センター(廿日市市)

【参加者数】 作品出展者10名 作品30点 作品数来場者2,892名

#### 【内容】

10名の作品他、オリジナル木製什器を使いサロンで作成した小さめの作品も多数展示し、モニターを使った作者紹介や会場に来れないアーティストを対象にオンラインで会場と繋いで鑑賞する時間もつくりました。

#### ⑤おでかけサロン

【実施日】 2023年1月22日

【場 所】 etto 宮島交流館(宮島まちづくり交流センター)

【参加者数】 本人7名、支援者・サポーター6名、一般2名 計15名

【内容】 いつものサロン活動に外出を付け加えたサロンを実施しました。

#### ⑥イベント「Clip Park」

【実施日】 2023年1月29日

【場 所】 CLiP HIROSHIMA(広島市千田町)

【参加者数】 本人1名、支援者・サポーター4名、ワーク参加者9名 計14名

#### 【内容】

取材掲載してもらった流れから、イベント参加の依頼があり、アーティストが似顔絵を描くというワークショップを実施しました。

### art201 の今後の展望

活動主旨をわかりやすく伝え、創作をする方を支えてくださる方々を増やしていきたいです。

スタッフの思いを参加してくださる方々に伝え、参加してくださる方々のご意見を聞き、「みんなで創る art201」を目指してサロン開催を中心にひとつずつ「準備」「実行」「振り返り」の行程をふみながら丁寧な活動をしていきたいと思っています。

参加者から喜びの声をたくさんいただいております。スタッフ一同楽しみになるようなサロンの開催を心掛け信頼関係が育つよう努力していきます。



## 【ART COMPLEX HIROSHIMA の実施概要】

- 実施期間：令和5年1月6日(金)～令和5年1月8日(日)
- 活動場所：広島市 JMS アステールプラザ 1F ギャラリー
- 参加人数：本人 3名 支援者・サポーター 8名 一般 5名  
アーティスト 3名 ファシリテーター 1名 計 20名

### ○内容

絵本『かいじゅうたちのいるところ』作：モーリス・センダック を題材に、絵本の中の世界を読み解いたりイメージしたりして3日間のワークショップでダンス表現を創りました。全員で踊る場面があったり、シーンに分かれて踊る場面があったり大変ですが、スタッフやサポートのもとで不安なく楽しく身体表現を創ることを目指しました。最終日の発表会は大盛り上がりの発表会を実施しました。

### 具体的なプログラム

- ・絵本を鑑賞した後絵本からもらったインスピレーションから、絵本の読み解き(一般プログラム)
- ・かいじゅうのダンスをシーン別に創作
- ・アクリル絵の具を使い服にペイントして衣装作り
- ・ボディペイントでメイク
- ・会場作り、『かいじゅうたちのいるところ』をイメージした絵やオブジェで会場を飾り付け
- ・発表会『かいじゅうたちのいるところ』を読み進めながら、パフォーマンス発表を行う

### ○ART COMPLEX HIROSHIMA の今後の活動予定や展望

オファーがあれば、今回実施した「かいじゅうたちのいるところ」をスタッフとアーティストだけで、特別養護学校や、福祉施設、子ども園等などに、読み聞かせ上演として回りたいと思います。あわせ身体ワークショップを開ければ理想です。

現代社会においては、ネットなしでは成り立たない社会になりました。リアルな体験をしなくても人と人が繋がれると言う錯覚に近いことが起こり始めていますし、バーチャル空間で体験が出来るシステムも開発されています。しかし、人間として生まれたからには、肉体を持って体験し、肉体を持って死ぬことこそが最大の喜びであり醍醐味であります。感情、感覚、直感、精神、思考、概念を外すこと、創造力を育む為には、リアルな身体を用いてこそ達成出来るものです。この最もあたり前で且つ重要なことを、障がい者健常者ひっくるめて、全ての地球上にいる人間に向けて発信していきたいと思っています。



### 〔アートの巣箱の成果〕

各団体の取り組みに一般の参加者の姿もあり、発表会や展覧会では来場も一緒になって、表現を楽しめる光景を目にすることができました。また、各団体スタッフ以外で団体をサポートされる方の人数も増えていることから、地域で障がい者の芸術文化活動を応援する人が増えることの一步につながったと考えています。

### 〔アートの巣箱から見えてきた課題〕

各団体、運営資金確保のため自主的な取り組みを行われていますが、大変苦戦されています。サービスに慣れていくせいか、障がいのある方やご家族の中には、文化芸術活動に対して、お金を払うことに抵抗のある方も多く、また、低所得ゆえに参加費を出せないと言われる方も居られます。

地域で障がい者の文化芸術活動を応援する人を増やしていくには、助成先のような団体が不可欠でもっと増えていく必要があると考え、表現活動の効果や魅力を伝える活動とともに、今後も助成金募集や活動を運営するために役に立つ情報の提供を行なっていきたいと考えています。

## その他、協力依頼の対応

### ● あいサポートアート展 実施協力

あいサポートアート展の審査員として、センター長の川口が協力した他、作品の搬入・展示作業、搬出、開催中の受付などに協力しました。

### ● おきらく劇場ピロシマ（一般社団法人 舞台芸術制作室 無色透明）

文化庁委託事業「令和4年度 障害者等による文化芸術活動推進事業」の「おきらく劇場ピロシマ 演劇クラブ」実施のサポートと福祉的アドバイスができるアドバイザーの派遣を行いました。

#### ・演劇クラブ①

【開催日】2022年6月12日(日)

【場所】広島市三篠公民館 大集会室

#### ・演劇クラブ②

【開催日】2022年7月10日(日)

【場所】広島市三篠公民館 大集会室

#### ・演劇クラブ③

【開催日】2022年8月14日(日)

【場所】広島市西区民文化センター 大広間

#### ・演劇クラブ④

【開催日】2022年11月20日(日)

【場所】広島市中央公民館 大集会室1

#### ・演劇クラブ⑤

【開催日】2022年12月11日(日)

【場所】広島市中央公民館 大集会室2

#### ・演劇クラブ⑥

【開催日】2023年2月12日(日)

【場所】広島市中央公民館 大集会室1

● 広場にあつまった仲間たちによる演劇公演「おきらく劇場ピロシマ ウタとナンタのさかのぼり」  
共催事業としてサポートしました。

【公演実施日時】2023年3月4日(土)14:00 / 18:00 3月5日(日)11:00 / 14:00(全4回公演)

#### 【稽古実施日程】

2022年12月25日(日)13:00-15:00 中央公民館 大集会室1

2023年2月11日(土)13:00～18:00 心身障害者福祉センター 大会議室 1.2.3

2023年2月19日(日)13:00～18:00 佐東公民館 ホール

2023年2月23日(木)13:00～18:00 アステールプラザ 大音楽室

2023年2月24日(木)17:00～21:00 中央公民館 ホール

2023年2月25日(土)13:00～18:00 中央公民館 大集会室2、3

(会場稽古) 2023年3月2日(木)18:00～21:00 アステールプラザ 多目的スタジオ

(リハーサル) 2023年3月3日(金)18:00～21:00 アステールプラザ 多目的スタジオ



【公演会場】JMS アステールプラザ 多目的スタジオ

【実施団体】主催：一般社団法人舞台芸術制作室無色透明

共催：認定NPO法人ひゅーるぼん 広島県アートサポートセンター

【後援団体】公益財団法人広島市文化財団 アステールプラザ

【補助金】広島市文化芸術活動活性化臨時支援事業補助金

【観客数】289名

#### 【舞台鑑賞支援の取り組み】

この公演ではいくつかの舞台鑑賞支援を実施しました。

利用者の声にもありますように、私たちの鑑賞支援にはまだまだ課題があります。

お客さまの声を聞きながら試行錯誤し、引き続き鑑賞支援の取り組みを実施してまいります。

#### 【字幕タブレット】

音が聞こえづらいお客さまへ、手にもてる字幕タブレットを配布しました。

今公演では5名のお客さまにご利用いただきました。

#### ＊タブレット利用者の声＊

([ウタとナンタのさかのぼり] 来場者アンケート、ぶんかのひろば 2022 舞台鑑賞支援調査・ヒアリングより一部抜粋)

・タブレットが重く、手持ちのため目線が下がるのが残念

・アプリ全体が不具合(通信環境がわるく一時ストップした)により話の内容がよくわからない箇所があった

・今後も字幕タブレットを利用して鑑賞をしたいと思うかという質問に対して→とてもそう思う。ちゃんと改善していただくと楽しくなると思います

・聴覚障害者でもたのしめるタブレットがあってよく理解できた

・字幕をみながら劇をみるのも大変でしたが様子がわかりよかったですと思っています。

#### 【音でできるパンフレット】

目でパンフレットを読むことがむずかしいお客さまへ、音声コード Uni-Voice 作成ソフト (JAVIS APPLI)

(日本視覚障がい情報普及支援協会) を使用して、パンフレットに音声コードを貼付しました。

#### 【託児】

小さな子どもをお連れのお客さまへ、託児受付を実施しました(3月5日11時の回 協力:NPO法人子どもコミュニケーションひろしま)。今公演では2名のお客さまにご利用いただきました。

#### 【観劇いただいた多くのお客さまのアンケートより】

○役者のみなさんのやさしいアイコンタクト、心が温まりました。みんな仲良く助け合ってなんとかなるおきらくに!生きにくい世の中をそうやってしなやかに生きていく力を今日、いただきました。

○今日劇を見るのが初めてでした。苦しい時代にケンカもあるけどみんなで仲良く暮らせば楽しいことが起きるんだ、など、今日の作品を見て思いました。

○とてもエネルギーに満ちあふれていて心がゆさぶられる作品でした。

○コロナで延期になったとはいえ、また今の情報を考えさせられるテーマでした。みんなが元気にお気楽にすごせる世の中になりますように。

## (6) 相談

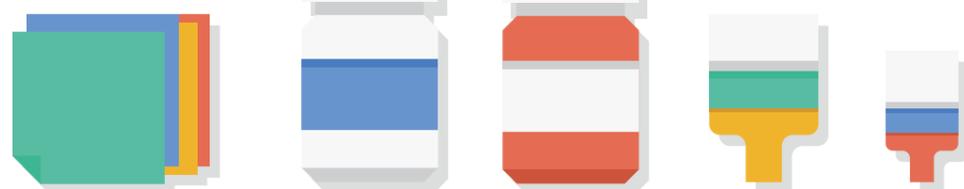
### ア) 相談等への対応

障害のある方、障がいのある方の表現活動をサポートされる方の悩みや相談事が解決されることを目指し、障害者文化芸術活動に関する相談に対応しました。

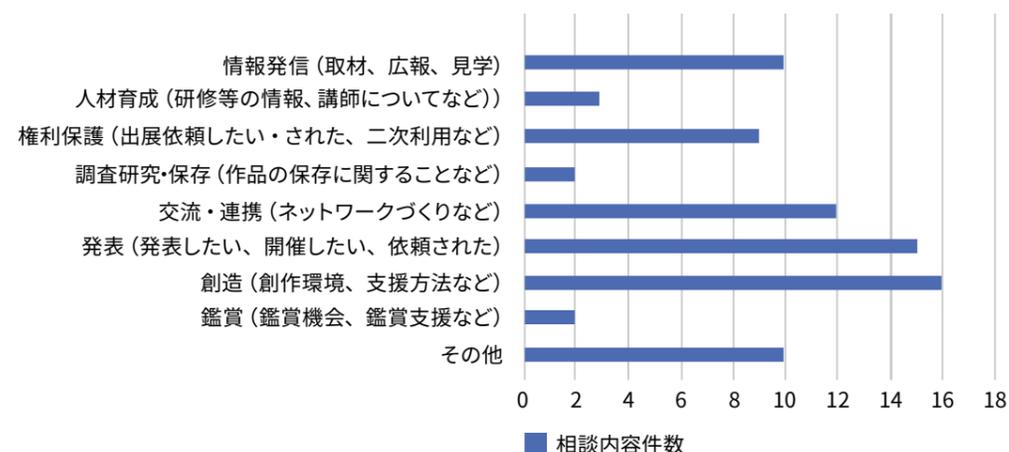
【受付方法】 電話・メール・FAX・ホームページ / あいサポートアート展広島会場にて相談窓口を設置

#### ●新規相談件数内訳（令和4年4月1日～令和5年3月31日まで）

相談者	相談件数	主な相談内容
本人(当事者)	19	表現活動がしたい 発表したい
家族	5	表現活動の場について
障害福祉関係者 (障害福祉サービス事業者、当事者団体等)	14	創作の環境について 作品の展示方法について
文化施設 (美術館、博物館、劇場、ホール、ギャラリー等)	2	鑑賞について
芸術家・文化団体・文化関係者	7	交流・連携について
市民団体 (サークル、クラブ活動等)	6	交流・連携について
教育関係者	5	創作環境と支援方法について
自治体	5	作品の二次利用について
その他(企業、報道機関、等)	16	作品の二次利用、取材について
<b>合計</b>	<b>79件</b>	<b>継続対応件数 420回</b>



### 相談内容件数



#### 対応事例①

【相談者】 本人(当事者)

【相談分類】 創造(創作環境、支援方法など)

【相談内容】 演劇のワークショップに参加したいと思っているが、ドクターに控えるように言われた。どうしたら良いか、教えてほしい。

【対応】 参加したい気持ちはわかるが、ドクターの言われることを優先してもらうように伝えた。統一した対応が必要と考え、関係するスタッフや演劇団体に連絡し、相談があったことを共有した。

【その後】 後日、演劇団体から「ドクターストップがあったので参加できない」と本人から連絡があったと報告を受けた。現在は、体調も落ち着き活動に参加している。

#### 対応事例②

【相談者】 団体

【相談分類】 発表(発表したい、開催したい、依頼された)

【相談内容】 団体が実施するイベントのポスターの原画を描いてくださる方を紹介してほしい。また、イベントで作品展示をしてほしい。

【対応】 相談者のニーズを聞きながら、イラストを描くことができると思われるアーティストのいる事業所に繋ぎ、原画を5枚描いていただいた。展示会の開催については、表現活動をされていない障がいのある方に、作品の魅力や創作活動についての情報、アートサポートセンターを知っていただく機会になると考え、15名のアーティストに協力いただき作品展示を実施した。

【その後】 ポスターや展示会が好評だったことから、次年度は、特別支援学校にも協力いただき、アートを取り入れたイベント開催を継続いただけそうである。

#### 〔成果〕

今年度は、本人(当事者)からの相談を中心に様々な立場の方から相談がありました。相談の内容から、障がいのある方の表現活動に興味を持っておられる方や団体、企業が増えてきていることや、福祉施設・事業所で創作・表現活動をサポートしていただけないことを理由に個人活動として、活動を始めておられる本人(当事者)さんが増えている現状を知ることができました。

個人からの相談が増えたことから、対応回数が昨年より増え、解決までに時間を要することもありましたが、専門家や関係団体、サポーターの協力より大きな問題が起きることなく対応ができたことが良かったと思っています。

#### 〔課題〕

年々相談件数も増え、解決までに時間がかかったり、解決できず蓄積される相談も増えています。たくさんの方に協力をいただき、解決に努めるようにしていますが、どこまで関わり、対応していくのかを検討する必要がありますと感じています。

## 一年を振り返って（総括）

今年度は「会う」ということに努め、支援者、関係者の表現活動に関する支援スキルがアップすること、障がいのある人が表現活動に参加できる機会を増やすこと、支援者、関係者のネットワーク機関を広げ、よりサポート体制を強化すること、県内で多様な表現の裾野の拡大することを目指して活動しました。

福祉施設・事業所の方と対話していく中で、文化芸術活動の取り組みをされない福祉施設・事業所と、熱心に取り組まれる福祉施設・事業所の二極化が起きている現状があり、取り組みの有無の理由を知ることができました。また、障がいのある方自身が考え、文化芸術活動を個人活動として行動する人も増えており、表現活動のサポートが得られない方からの相談が増えています。そのことから、サポートセンターの認知度の向上と役割の大きさを感じ、他機関と連絡をとりながらサポートしていきました。障がいの有無に関わらず、表現活動ができる環境を整えていくには、人やモノ、施設、事業所、団体、機関などとの繋がりが欠かせないため、今後も対話と検討、実践を繰り返しながら、サポート体制を強化していきたいと思えます。

目先のことや、社会のスピードに流されてしまいそうになることもありますが、表現することは心の成長や安定など様々な効果があり、誰もが日々生み出しているものであることを忘れず、様々な表現を喜怒哀楽で受け入れられる心の余裕を持ちながら、活動を進めていきなないと思うこの頃です。

最後になりましたが、本事業の実施にあたり、ご支援ご協力いただきました皆様にお礼申し上げます。



みんなで楽しむおしゃべり鑑賞会～美術館でアートをみよう～の参加者・関係者のみんなで

令和4年度 広島県障害者文化芸術活動支援事業報告書  
広島県アートサポートセンター

〈編集〉広島県アートサポートセンター  
〒731-0102 広島県広島市安佐南区川内6丁目28-15  
認定NPO法人ひゅーるぼん内  
TEL 070-5671-8668 FAX 082-831-6889  
MAIL [hululu@hullpong.jp](mailto:hululu@hullpong.jp) URL <https://hululu.jp>

〈デザイン〉株式会社アームス  
〈発行日〉2023年3月

